

# 北海道国際理解教育研究協議会 会報

第20号

会長 磯貝 登  
事務局長 大泉 弘  
発行 1992  
1. 20

## 十勝の野にサテライトを掲げて

北海道国際理解教育研究協議会  
会長 磯貝 登

第12回北海道国際理解教育研究大会は、帯広市立花園小学校を会場に、太田哲雄実行委員長を中心とした皆様のご尽力により、見事な花を咲かせました。

基調報告、小・中・高の公開授業、授業研・提言についての分科会、アトラクション、記念講演の全てが、600名の参加者に深い感動を与えてくれました。特に、花園小学校6年3組では、日本と南米ペルーの関係を理解するため、児童たちが、教室から実際にペルーに国際電話をかけて日系人と会話する先駆的な授業を公開しました。

分科会では、昨年年第11回網走大会と同様に地域住民を対象にした第4分科会をもうけ、「地域における国際理解教育をどう進めるか」について話し合われたことは、これからの国際理解教育のすそ野を広げる意味で効果的であったと思います。さすがに、昭和55年に第1回の全道大会を経験された精鋭の皆様が総力を結集しただけあって、品性ある内容の充実した大会でありました。

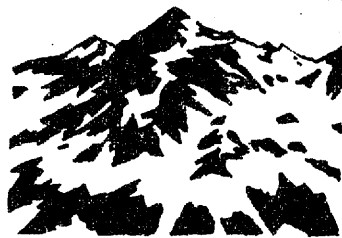
また、今回は、第1回の全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会を兼ねた意義ある大会でした。北海道の国際理解教育研究大会は、全国的に見てもレベルがたかいと考えています。全国の各ブロックにおいては、本道のように小・中・高別の授業を公開しているところは少ないと思います。

大会運営、参加者への気配りなども含めてすばらしい大会でありました。閉会式のおりに申し上げた「事をなすとげたさわやかな気持ちと深い感動」が、まだ、余韻として残っています。

本研究協議会の全道大会に一大エポックを与えてくださいました事を、今後  
も大切にし日常の実践につないでいきたいと思ひます。

末筆になりましたが、太田哲雄実行委員長を中心にした十勝の皆様、それに  
この大会のためにお力添えくださいました北海道教育委員会、帯広市教育委員  
会はじめ関係機関及び各団体に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年、また、江差町でお会いしましょう。



第1回 全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会  
第12回 北海道国際理解教育研究大会  
第12回 十勝管内国際理解教育研究大会

## 帯 広 大 会

— 大 会 主 題 —

世界にはばたく 児童生徒の育成  
～国際社会に貢献できる日本人の育成をどうすすめるか～

### 基 調 報 告

大会主題 「世界にはばたく 児童生徒の育成」

～国際社会に貢献できる日本人の育成をどうすすめるか～

#### 1 国際理解の現状とその必要性

今日、我が国は、国家間の相互依存関係が一層深まる中で、孤立しては存在しえないという「新しい国際化」の時代にあります。昨年度における、海外への出国者数は1000万人を越え、我が国への入国者数も300万人と、いずれも史上最高を記録しています。また、海外に長期期間在留して活躍している日本人の数は35万人に及び、世界との結びつきを一層強めております。そして、食料、エネルギー源、人口、更には自然環境保護の問題と、どれ一つをとっても我々の日常生活と密接な

関係を持ち、身近に大きな影響を与えております。

現在、帯広市においては、22か国より 380名の外国人が暮らし、十勝の各町村も外国人を迎え入れて国際親善交流に力を注いでおります。また、本道における「コンスタンチン君」の問題に象徴されるように、今日国際化の問題は我々一人一人が日常生活の中で考え行動していかなければならない課題となってきております。我が国が真の国際化を遂げるためには一人一人が自分の周囲にある小さな国際化現象を肌で感じ取り、それに積極的にかかわっていく態度を身につけることが求められております。

90年代における国際理解教育の課題は、このように日常化してきた社会の色々な面での国際化現象を単に知識として理解するにとどまる受信型の国際理解教育から、それを肌で感得し、受容し、自己主張できる発信型の国際理解教育への転換を図り、より積極的に世界にはばたく児童生徒の育成をめざすことにあると考えます。

## 2 大会主題設定に当たって

今日、世界情勢の変化は誠にめまぐるしいものがり、今後どのように変わっていくのか予測が困難な状況にあります。このようなとき、学校教育では如何に時代や社会の変化に対応し、生涯にわたり遅く豊かに生き抜く児童生徒の育成を図るかどうかが最も重要な課題となっております。時あたかも新学習指導要領の完全実施を目前にしており、より積極的に国際理解教育を推進していくために、「世界にはばたく児童生徒の育成」を本大会の主題に設定しました。

そこで、「世界にはばたく児童生徒の育成」を図り、国際社会に貢献できる日本人の育成を進めるために、学校教育改善の視点として、次の点が重要と考えます。

- (1) まず、国際性を培う教育の基本は、日本人としての意識と自覚を持ち、その自立性・主体性を養うことであります。これは学校教育活動全体を通じて追求される課題です。  
特に、自立性・主体性については自己主張や討議の技術の習得などを通して表現力を養うことが必要であります。
- (2) 国際性を培う教育で大切なことは、異質なものへの寛容さと、個性的な児童生徒の育成が重要であります。我が国は、人種、宗教、言語、文化、生活様式等の面で同質性が高く、その歴史的発展の中で、一部に独善的・閉鎖的な社会を作り上げてきました。今、教育に求められるものは、安易な共通性の認識に安住することではなく、異質なものに対する理解と配慮であります。また、児童生徒は本来独自性をもった個性的存在であるという認識にたち、日々の実践において一人一人の発想や考え方を十分に尊重することが大切であります。
- (3) 人類の共有財産である有限な地球の資源を枯渇させないため、「地球の環境保全・保護の問題」を「物を大切にする」、「地球にやさしい生き方をする」という、グローバルな視点から考え行動できる児童生徒の育成をすることが重要であります。

- (4) 日常化してきた社会のいろいろな面での国際化現象や異文化を、ただ、単に断片的知識として理解するにとどまらず、人間同士の触れ合いによる直接体験や、交流を通し、肌で感得し受容する積極的な指導が肝要であります。
- (5) 人間同士の触れ合いを通して、異文化理解を図ることが大切であると同時に、我が国の文化と独自性について理解し説明できることが、発信型の国際理解教育として重要であります。

### 3 十勝管内における研究経緯と本大会の研究の方向

昭和55年に第1回全道国際理解教育研究大会を十勝で開催し、約60数名の参加者のもとで今後の研究内容と研究の方向づけを得ることができました。その後、十勝での研究は海外派遣者のサロンの集まりから、広く現場に呼びかけ、国際理解教育を学校教育にどう定着させ、授業の中でどう展開するかという視点で、常に授業を中心にすえて研究を積み重ねてまいりました。

また、国際理解教育の手引きともなる参考資料（特別活動・道徳等）も作成し、現在、十勝の各学校に配布し利用されております。更に、昨年度から、十勝教職員研修センターにおいて国際理解教育講座が開設され、この会のメンバーが、多くの教員に参加を呼びかけるとともに、講座の指導者として国際理解教育の推進に努めているところであります。

今大会は、小学校1学年が来年度より本格実施される生活科において、3学年、5学年は学級活動で、6学年は社会科の学習を通して、やがて世界にはばたいていける素地を養い、中学校、高校は外国人を協力者に迎え、生きた英会話を中心にした授業で心の交流を図り、今、世界は日本に何を望んでいるかを考えさせます。

今後、十勝に住む外国人はますます多くなってくると予想され、「国際社会に貢献し、信頼され日本人」を育成することは、ここ十勝の地においても避けて通ることのできない課題でもあります。

本大会では、「国際社会に貢献できる日本人の育成」のあり方を求めて、小、中、高における国際理解教育をどう進めるかについて討議していただきます。特に、第4分科会においては、帯広市国際親善交流市民の会から提言をいただき、地域における国際親善や国際化を学校との結びつきの中で、どうとらえるかを真剣に考えていきたいと思っております。

本研究会が、皆様方のご協力により国際理解教育推進のための大きな一歩となることを祈念して基調報告と致します。



## 世界に生きる日本人の育成

— 長期展望に立った実践を —

北海道国際理解教育研究協議会

研修部長 藤原 勲 夫

(札幌市立北野平小学校)

21世紀を展望します時、国の内外における社会の成熟化に伴って、国際間のより一層の協調が求められ、そうした国の内外の動きに対応できる日本人の育成が強く求められております。

しかし、現在、政治、経済、文化、スポーツ等の交流に伴い、海外勤務者、海外旅行者が急増していますが、その交流の中で私ども日本人の持っている特異性が指摘され、諸外国の様々な批判的となっている現状を見逃すことはできません。また、世界の諸国や諸国民間にも人口、食料、資源、環境、貿易、平和等において、解決しなければならない共通の課題がありこの面において日本人の果たすべき役割が期待され、大いなる活躍を切望されております。

このような現状を踏まえる時、学校教育は如何なる時代の変化にも対応し、生涯に亘って豊かにかつ逞しく生きる児童生徒の育成は私共の重要課題であります。新学習指導要領の完全実施を来年度以降に控え、私共未来に生きていく子供達の教育に携わる者としての責務は、特に大きいものと考えるところであり、国際理解教育の推進に対する国民の期待と要望に着実に応えねばならないと決意を新たにすものでもあります。

すなわち、その場、その時の課題に処する対症療法的なものではなく、長期的展望に立つ課題への取り組みであります。尊敬される日本人として個性豊かな独自性と主体性を持ち、「国際社会に生きる日本人の育成」を主眼に、日々の創造的な教育活動にあたらねばならないと考えます。

このような日本人を育てるには、小、中、高の連携のもと、自国の文化を知り誇りを持ち、他国の文化を理解し、お互いに尊重し合う中から、個々の世界観を創りあげることができる「豊かな国際感覚の育成」を意識した教育がなされなければならないと考えます。

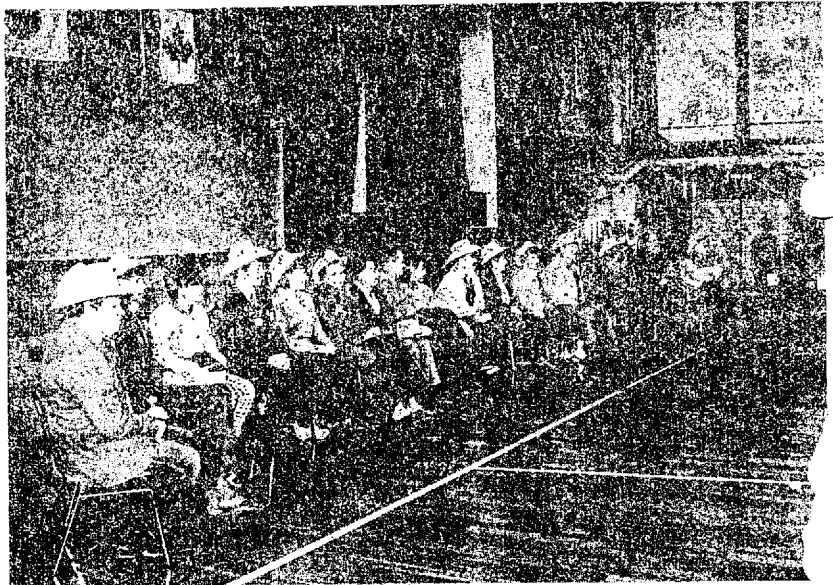
そのため、北海道国際理解教育研究協議会研修部では、各支部へのアンケート結果を検討すると共に、新学習指導要領のねらいを受け、学校に於ける国際理解教育の充実、発展、さらに地域に根ざした国際理解教育の推進、そして帰国教員実践報告集の活用を最重点にあげ、次の様な観点で研究を推進することを提言いたします。

1つ目は、学校教育に於ける国際理解教育の充実であります。教育課程審議会の答申の「21世紀に向かって、国際社会に生きる日本人を育成する。」に立って、学校教育では身近な生活の中から素材を引き出し、いつでも、どこでも、そしてだれでも取り組める国際理解教育を日常実践を通して求めていきます。

2つ目は、地域に根ざした国際理解教育の推進であります。国際社会に生きる日本人の育成も、学校教育と地域との結びつきでより一層の効果をあげるものであります。そして、生涯にわたった学習体系の中で、国際理解教育の目標はその実を結ぶものと考えます。そのためには、地域社会に根ざした国際理解教育のあり方を理解し、「開かれた学校」として、この面での教育諸活動を見直す必要があると思います。

3つ目は、実践報告集の活用であります。在外教育施設で多くの困難を克服しながら、海外子女教育に携わってきた帰国教師の貴重な体験を報告集「在外日本人学校での教育の現状と展望」として、研修部で刊行することになりました。この報告集をぜひ、各学校で国際理解教育を進める上での手引き書きとして活用してほしいものです。そして（私共）これからの実践を各地の研究会や本研究大会で交流し合い、私共の実践をより充実したものにしていきたい、さらに全道の諸兄と知恵と力を出し合って、北海道における国際理解教育の充実発展を目指して行きたいと考えているところであります。

本大会が多くの方々のご支援とご協力をいただきながら、一層の充実と発展を期し、北海道の国際理解教育推進のための大きな一歩となることを祈念し、また、研究の機会を与えて下さいました帯広市立花園小学校、帯広市立第三中学校、及び帯広南商業高等学校の関係者に感謝し、北海道国際理解教育研究協議会からの基調提言といたします。



〈カナダのカーリング選手との親善交流会。花園小〉

# 十勝管内海外教育事情研究会

## 研修交流会のあゆみ

北海道教育庁十勝教育局

義務教育指導班指導主事

・海外の視察体験をどう生かすか

○ブライアン・ポッツ君(交換留学生として来帯中、アメリカ、アラスカ州スワード高校)

・高校生を通しての勤労観

### ◆第1回研修交流会 昭和52年3月6日

報告者

○広尾町立豊似中学校長 是川 圭市氏

・アメリカ・大洋州、東南アジア諸国を長期研修で視察した成果の発表

○帯広市立上帯広小学校教頭 柏崎 良一氏

・アメリカの旅、印象記

○帯広市立豊成小学校教頭 小野氏

帯広市立栄小学校教諭 小野寺 巖氏

(共同研究発表) 海外研修で何を得たか

### ◆第5回研修交流会 昭和54年1月17日

報告者

○小見山 正雄氏

帯広市教委学校管理課長

・アメリカの中・高校生の生活

講演 「わたしの見た日本」

講師 シェンタ・カイラ・サパティ氏

スリランカ出身、元高校教師

### ◆第2回研修交流会 昭和52年8月7日

講演

講師 土蔵 勇氏

十勝町村教育委員会連絡協議会

演題 「スカンジナビア三国の旅」

### ◆第6回研修交流会 昭和55年1月19日

講演 「最近のヨーロッパの教育事情」

講師 幸谷 昭三氏 十勝教育局長

### ◆第3回研修交流会 昭和53年2月12日

報告者

○幕別町立糠内小学校長 小藤田 良夫氏

広尾町教委次長 嵯峨山 豊氏

○社会教育関係の視察を通して得たもの

○芽室町立芽室小学校教諭 笠松 信一氏

・アフリカ、ケニアの国情と国際理解教育

### ◆第7回研修交流会 昭和55年5月31日

講演 「外国人から見た日本人

国際理解教育について」

講師 ギリアム・ガウ氏(帯広聖書センター、ニュージーランド出身)

### ◆第4回研修交流会 昭和53年8月7日

報告者

○小見山 正雄氏

### ◆第8回研修交流会 昭和56年6月27日

報告者

○足寄町立足寄西中学校長 吉村 正義氏

・海外での子ども達との出会い

○帯広市立光南小学校教諭 桑谷 昌芳氏

「外国人と日本人」(海外日本人学校から帰国

して(元、クウェイト日本人学校教諭)

◆第9回研修交流会 昭和57年5月22日

報告者

- 帯広市立帯広第七中学校長 藤田 寛氏
  - ・日本人学校帰国レポート
- (元、イラク、バグダット日本人学校長)

◆第10回研修交流会 昭和58年1月7日

報告者

- 清水町立御影小学校教諭 山上 貞次郎氏
  - ・ユーゴスラビア研修レポート
  - ベオグラード日本人学校
- 幕別町立白人小学校教諭 遠藤 健三氏
  - ・見たこと・聞いたこと・感じたこと
- (チェコスロバキア社会主義共和国)

◆第11回研修交流会 昭和58年5月18日

報告者

- 幕別町立札内南小学校教諭 今野 勝三氏
  - ・インドネシア(スラバヤ)日本人学校の体験から

◆第12回研修交流会 昭和59年1月13日

報告者

- 豊頃町立大津中学校長 安達 実氏
  - ・台湾省、学校訪問と見て歩きの記
- 広尾町立広尾中学校教諭 瀬古 英二氏
  - ・チェコスロバキアの教育事情

◆第13回研修交流会 昭和59年5月23日

報告者

- 士幌町立上居辺小学校長 上神田 正氏
  - ・ヨーロッパ教育事情視察旅行記
- 音更町立音更小学校教諭 菅 忠良氏
  - ・スチーブンス小学校(アメリカ)を訪れて

◆第14回研修交流会

報告者

- 士幌町立佐倉小学校長 菅原 吏氏
  - ・南太平洋3か国報告
- 幕別町立駒島中学校教諭 熊田 清一氏
  - ・訪欧視察を終えて

◆第15回研修交流会

報告者

- 音更町立音更小学校教諭 小貫 耕喜氏
  - ・ナイジェリアのラゴス日本人学校
- 忠類村立忠類小学校長 阿部 功氏
  - ・イタリアのテルニの学校を訪れて

◆第16回研修交流会 昭和61年1月9日

講演 「国際理解教育の課題」

講師 工藤 哲朗氏

北海道教育庁十勝教育局長

◆第17回研修交流会 昭和61年5月19日

報告者

- 芽室町立芽室西小学校教諭 佐々木孝士氏
  - ・ベネズエラ良いところ(元、カラス日本人学校)



◆第18回研修交流会 昭和62年1月6日

報告者

- 帯広市立広野小学校教諭 本間 武氏
  - ・3年間のイタリア報告
- 幕別町立幕別中学校教諭 横山 一男氏
  - ・ヨーロッパの教育事情視察報告

◆第19回研修交流会 昭和63年1月13日

報告者

- 士幌町立佐倉小学校 北村 之政氏
  - ・ギリシャ、フランス、イギリス、米国の学校訪問並びに教育文化施設等を視察して

◆第20回研修交流会 昭和63年5月26日

報告者

- 帯広市立広陽小学校教諭 久門 好行氏
  - ・リヤド(サウジアラビヤ)日本人学校の体験

◆第21回研修交流会 平成元年1月18日

講演

講師 藤原 明雄氏

北海道教育庁十勝教育局長

演題 「アメリカの教育事情」

◆第22回研修交流会 平成元年5月24日

報告者

- 音更町立下音更中学校長 福西 茂男氏
  - ・パナマでの3年間

◆第23回研修交流会

報告者

- 帯広市立花園小学校教諭 池田 斉氏

・ビトリア日本人学校体験

◆第24回研修交流会

報告者

- 清水町立御影小学校教諭 徳成 達広氏
  - ・ナイロビ日本人学校体験

◆第25回研修交流会 平成2年5月24日

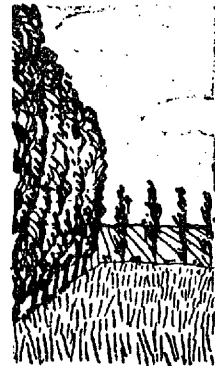
報告者

- 芽室町立芽室西小学校教頭 上平 忠義氏
  - ・クアラルンプール日本人学校体験

◆第26回研修交流会 平成3年2月27日

報告者

- 音更町立東士幌小学校教諭 舟越 洋二氏
  - ・リマ日本人学校体験



# 国際理解教育 十勝管内海外教育事情研究会

## 研究大会のあゆみ

### 第1回 国際理解教育研究大会

1. 期 日 昭和55年8月24日(日)
2. 会 場 十勝教職員研修センター
3. 主 催 十勝管内海外教育事情研究会  
北海道子女教育教師の会
4. 後 援 北海道教育庁十勝教育局  
十勝町村教育委員会連絡協議会  
帯広市教育委員会  
十勝海外派遣青年と婦人の会

### 第2回 国際理解教育研究大会

1. 期 日 昭和56年12月9日(水)
2. 協力校 音更町立柳町小学校
3. 会 場 音更町立柳町小学校(午前)  
木野福祉会館 (午後)

### 第3回 国際理解教育研究大会

1. 期 日 昭和57年11月15日(月)
2. 協力校 帯広市立花園小学校
3. 会 場 同 上
4. 日 程

### 第4回 国際理解教育研究大会

1. 期 日 昭和59年2月8日(水)
2. 協力校 幕別町立札内南小学校
3. 会 場 幕別町立札内南小学校

### 第5回 国際理解教育研究大会

1. 期 日 昭和60年2月21日(木)
2. 協力校 音更町立音更小学校
3. 会 場 音更町立音更小学校

### 第6回 国際理解教育研究大会

1. 期・日 昭和60年11月27日(水曜日)
2. 協力校 芽室町立芽室西小学校
3. 会 場 芽室町立芽室西小学校

### 第7回 国際理解教育研究大会

(十勝管内海外教育事情研究会  
創立十周年記念)

1. 期 日 昭和61年11月27日(木)
2. 協力校 帯広市立緑ヶ丘小学校
3. 会 場 同 校

## 第8回 国際理解教育研究大会

- 1 テーマ 学校における国際理解教育をどうすすめるか。
- 2 主催 十勝管内海外教育事情研究会
- 3 協力校 帯広市立帯広第四中学校
- 4 後援 十勝教育局・十勝教委連・帯広市教委  
帯教研
- 5 期日 昭和62年11月18日
- 6 会場 授業 帯広市立帯広第四中学校  
研究会 ホテル宮崎  
於 帯広第四中学校視聴覚室

## 第9回 国際理解教育研究大会

1. テーマ 学校における国際理解教育をどう進めるか。
2. 主催 十勝管内海外教育事情研究会
3. 協力校 幕別町立札内北小学校
4. 後援 十勝教育局・十勝管内教育委員会連  
絡協議会・幕別町教育委員会
5. 期日 昭和63年12月6日(火曜日)
6. 会場 幕別町立札内北小学校

---

---

## 第10回国際理解教育研究大会開催

平成元年10月30日 於 帯広市立広陽小

---

---

---

---

## 第11回 十勝管内 国際理解教育研究大会報告

---

---

平成2年10月18日(木)  
清水町立御影小学校



今回の『帯広大会』は北海道新聞をはじめ、地元紙でも取り上げ、広く報道されました。三社の記事を紹介します。

国際社会に貢献する児童生徒を育成しようという道  
国際理解教育研究会が二  
十二日、帯広花園小で開か  
れ、全道から教育関係者約

# 広い視野で羽ばたけ

花園小

## 国際教育研究会で講演



ペルーの様子を国際電話で聞いた国際理解教育の公開授業

六百人が参加した。主催した道国際理解教育研究会の職員登壇が「豊かな生活をつくり上げていくためには、文化の違いを越えて互いに理解しようとする努力が必要」とあいさつ。

花園小、帯広三中、帯広南商高の三校、六学級で英

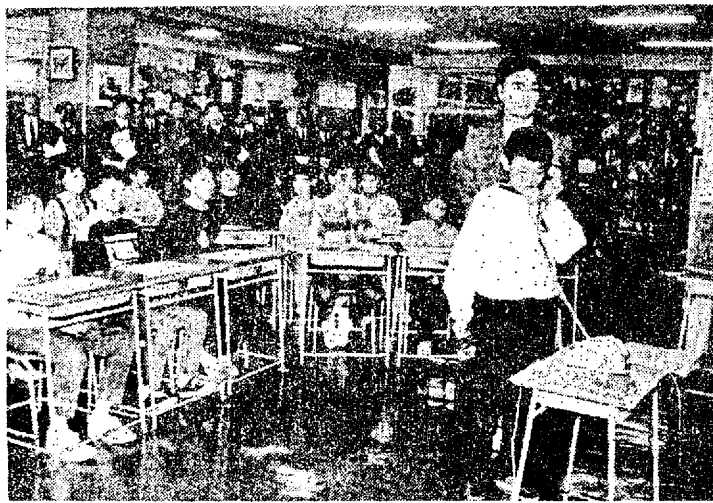
会話などの公開授業が行われた。花園小六年三組（船越洋二教諭）は日本人のペルー移住九十年をテーマに現地に住む日系二世ルイス・タマシロさんに国際電話をかけ「ペルーから見た日本」などについて質問し、理解を深めた。

その後、公開授業をもとに分科会が行われ、各学校での取り組みが報告された。また、駐道大使の堀功一氏が「国際社会の中の日本人」と題して講演、世界的な視野に立って学校教育を進める必要性を力説した。

北海道新聞

1991年(平成3年)11月23日(土曜日)

平成3年(1991年)11月23日 (土曜日)



花園小学校で行われた六年三組の公開授業

# 公開授業と学習成果発表

## 国際理解教育研究大会

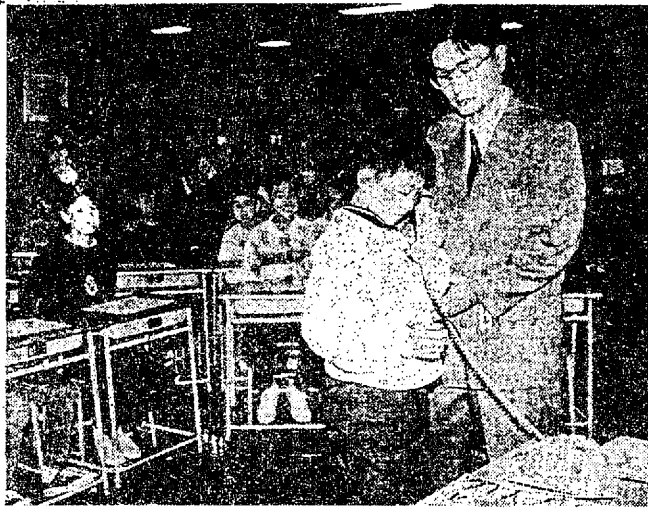
帯広・花園小

第十二回北海道国際理解教育研究大会(全国海外子女教育研究協議会、北海道国際理解教育研究協議会、十勝管内海外教育事情研究会主催)が二十二日、帯広市立花園小学校で行われた。同大会は「世界にはほたく児童生徒の育成」を研究テーマに公開授業や分科会、記念講演会などを実施。このうちの公開授業では、同小学校代表学級四クラス

の授業のほかに帯広南商業高等学校、第三中学校の代表クラス二学級も英語の授業を公開し、日頃の学習成果を発表した。

同大会は、人間尊重精神を徹底しながら世界平和へ貢献できる日本人を養うもの。今回は同大会のほかに「第一回全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会」と「第十二回十勝管内国際理解教育研究大会」も同時に開催し、年齢別に合わせた国際理解教育法などを討議。自覚を持って国際社会にはばたける児童生徒の育成を協議した。

この日は、全国海外子女教育関係者や道内国際理解教育関係者ら約四百人が参加。初めに開会式の中で基調報告が行われたあと小学生四クラスと南商・三中の代表クラス二学級が同小学校三階で公開授業を行った。この中で花園小学校六年三組(舟越洋二指導者)の教室ではNTT帯広支店(唐澤規夫支店長)が架設した電話機でペルー在住の玉城正一さん(まこと)通話。代表児童四人が移住してからの苦労や日本に対しての感想、ペルーのいいところなどを次々に質問し、ペルーに対しての知識を高めながら、玉城さんと国際交流を深めていた。



国際電話でペルーの様子を聞く六年生

# 国際性高めよう

## 道国際理解研究大会

国際化社会に対応した教育の創造を目指して全道の関係者が集う第十二回北海道国際理解教育研究大会が二十二日、帯広市花園小学校を会場に開かれ、国際電話を活用した公開授業をはじめ分科会、講演が行われた。

### 公開授業 ペルーへの電話も

十勝管内国際理解教育研究会(会長・太田西雄新得小学校長)などの主催。今回から全国海外子女教育研究協議会が主催に加わり、第一回全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会を兼ねて開かれた。

全道から四百人余りが参加。午前九時半からの開会式で大会実行委員長の太田会長が「二十一世紀の地球市民として国際性を高めることが大きな課題」とあい

さつ、引き続き花園小の四年生と帯三中、帯南福高の合わせて六クラスの授業が公開された。

このうち花園小六年三組では、国際協働の大切さを学ぶ「世界の日本」(社会科)の授業を行い、日本と南米ペルーの関係を理解する手段として国際電話を導入。教室から実際にペルーに電話をかけて日系人と会話をする先駆的な実践を行った。

このあと、小・中・高校と地域の四つに分かれて研究を深める分科会を開催。最後に堤功一北海道担当大使が「国際社会の中の日本人」と題して記念講演を行った。

公開した。また二年二組は、